

## 論 文

# 血液透析患者の低リン食の効果とその影響因子

山崎菜穂美・金谷 羊子・谷内口公子  
中森 好美・今井 明美・小西 京子  
(金沢市立病院)

The experience of low phosphate diet to the patients  
with chronic renal failure

Nahomi Yamazaki, Yoko Kanaya, Kimiko Yatiguti,  
Yosimi Nakamori, Akemi Imai and Kyoko Konisi  
Kanazawa City Hospital

### 要 旨

長期透析患者の増加とともに、長期透析に伴う合併症が重要視され、その1つに、骨・関節障害があげられている。

この研究は、血液透析患者の二次制副甲状腺機能亢進症および異所性石灰化の合併症の原因の1つとされる高リン血症を改善する目的で、食事療法に目を向け、低リン食(600~700 mg)を促し、血清リン濃度がどのように変化するか検討した。

また、指導後、血清リン濃度の変化をもたらす影響因子についても検討した。

高リン血症の認められた7例に低リン食の指導をしたところ、全体としては血清リン濃度の明らかな低下が認められなかったが、 $ip 6 \text{ mg / dl}$ 以下の明らかな増加が認められた。しかし、その後の経過観察では、血清リン値は前値に復する傾向が認められ、長期間継続して低リン食を実施することは容易ではないことが言えた。

したがって、低リン食に対する透析患者のコンプライアンスを高めるため、定期的に、わかりやすく、家族も含め、根気よく説明して、理解を深めることが必要である。